

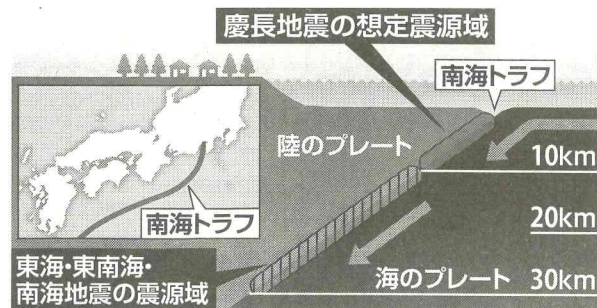
## 南海トラフ 非常に浅い震源

### 1605年「慶長地震」

東海地震など国が警戒する巨大地震の震源域がある「南海トラフ」で約400年前に起きた「慶長地震」は、海底下10キロまでの非常に浅い所に震源があった可能性が高いことが、東京大の古村孝志教授(地震学)らの研究でわかった。慶長地震は、関東〜四国の広い範囲に津波被害を与えたが、現在こ

の海域で、震源の浅い津波地震の発生は想定されていない。古村教授は「巨大地震とは別に、津波地震対策も必要だ」と指摘している。南海トラフは、駿河湾から四国沖の海底に延びる深い溝。海のプレートが陸のプレートの下に沈み、境界にひずみがたままって、90〜150年周期で巨大地震

### 津波地震 国の対策想定外



(東海、東南海、南海地震)が起きている。震源の深さは10〜30キロと推定される。慶長地震(1605年)の揺れは震度4程度とみられ、揺れの割に津波が大きい津波地震として知られる。古村教授らが、巨大地震の想定震源域より約75キロ沖合の、地下10キロまでの浅い部分で起きたと仮定してコンピューターで再現すると、古文書に残る被害や地殻変動の記録などと矛盾のない結果が得られた。